

48 極少量生産に対応した先染め織物製造技術に関する研究

古谷 稔, 藤田浩行, 瀬川芳孝

1 目 的

雑貨・小物ブームの中で、これらの製品を短納期での生産するのに適した織物素材の提供方法を確立することで、用途開拓の可能性が高くなる。また近年、産元商社や製布業においてマフラー、鞆、ハンカチ、帽子等の小物雑貨を生産・販売していこうとする機運が高まっている。

そこで、保有する小ロット対応の生産技術を用いて、小物・雑貨向けの織物素材提供に活用できる先染め織物製造技術について研究を行った。

2 適切な先染め織物製造技術への提案

小ロット対応した生産技術を再検討し、生地の見込み生産（在庫対応）を活用し、雑貨・小物に適応した生産手法について検討と実験を行った。

2.1 生地在庫による対応

ここでは、織り組織に工夫した生地在庫について検討し、下記のプリント技術やクラッシュ加工に適した先染め織物の試作を行った。

2.2 プリント技術の併用

上記の生地在庫に対してプリント技術を併用する方法について検討を行った。特に対象とする雑貨・小物に向くデザインについて検討を行った。

2.3 クラッシュ加工¹⁾との組合せ

クラッシュ加工用の生地在庫では織り方が限定されるため、要求されるデザインに迅速に対応する方法について検討を行った。



図1 生地在庫にプリントしたものをクラッシュ加工する実験風景（播州織工業協同組合）

3 結果と考察

極少量の雑貨・小物の生産に対応した、織物組織を

工夫した生地在庫方法やクラッシュ加工を中心とする加工技術等との併用による織物生産技術・手法について検討を行った。

生地在庫を活用した雑貨・小物用の素材提供では、バイヤーの要求に対応できる範囲での広い生地在庫をいかに迅速に達成できるかが鍵になる。また、生地在庫については、播州織産地が注力する戦略として確立されようとしている。これに現有するプリント技術やクラッシュ加工技術を組み合わせることで、小ロット生産に適した織物素材開発に対応した製造技術を確立することが可能であることが分かった。

今後、商談を得るためにはクイックタイムでサンプルを提示する必要性があり、どのように対応するかが課題となっている。

4 結 論

試作したオリジナル織物について、播州織見本市（東京：図2）やオリジナル織物の展示会（西脇）で発表を行った。出品した織物のうち、プリント併用技術によるクラッシュ加工織物は、大手ブランドと共同開発（地元企業を含む：図1）に取り組んでいる。今後、播州織産地企業では、生地の見込み生産方式に注力していく可能性が高いため、本研究結果が活かされるものと期待する。



図2 試作織物の展示会における発表風景

参 考 文 献

1) 表面加工方法及び表面加工織物 特許第4304236号
竹内、古谷

（文責 古谷 稔）

（校閲 藤田浩行）